

コブノメイガ情報第1号

令和2年7月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**コブノメイガによる被害が平年よりも早く発生しています。
普通期栽培以降の作型では特に注意が必要です！**

1 発生状況

コブノメイガはセジロウンカやトビイロウンカと同様に海外から飛来し、例年の飛来時期は6月下旬から7月中旬となっています。日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる飛来解析から、県内各地で例年よりも早い6月11日頃にコブノメイガが飛来した可能性があり、実際に7月上旬の巡回調査において、県内各地のほ場でコブノメイガによる被害及び成虫や終齢幼虫を確認しています。その後も、飛来に適した気象条件が10回以上出現しており、県内の広い範囲で複数回飛来している可能性があります。

2 コブノメイガについて

幼虫はイネの葉を1枚ずつ縦にたたんで筒状にして葉先を食害し、次々と食害する葉を変えます。コブノメイガによる食害を受けた葉は白く見え（図1）、止葉に被害が多いと収量に影響します。

コブノメイガは1か月程度で1世代を経過し、世代を繰り返すごとに急激に生息密度が高まります。特に窒素過多や晩生のイネに多発することが多いため、注意が必要です。



図1 コブノメイガによる被害

3 防除対策

コブノメイガは成虫発生ピークから7~10日後を目安とした若齢幼虫の防除が効果的です。図2の有効積算温度に基づくコブノメイガの発生予測を参考に、コブノメイガによる被害や幼虫の寄生を確認したほ場では、トレボンEW、トレボンエアー、MR、ジョーカーEW、ディアナSCなどで防除しましょう。

ただし、本年は成虫が複数回飛来している可能性が高く、ほ場内の幼虫の齢期がばらばらなことが考えられます。ほ場内の被害状況をよく観察して適期防除を心がけましょう。

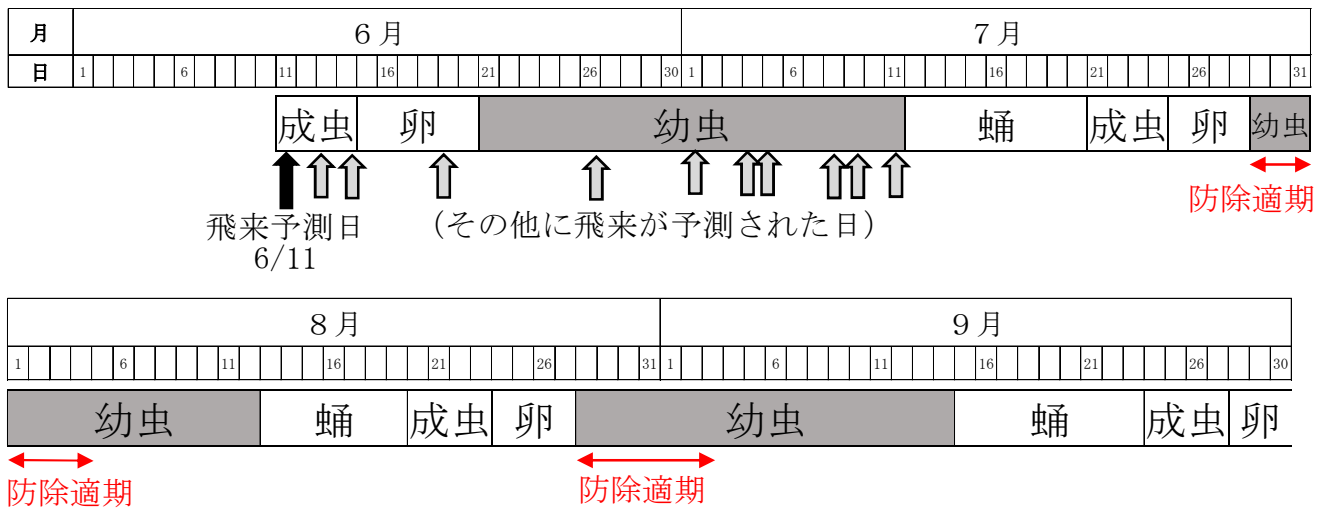


図2 有効積算温度に基づくコブノメイガの発生予測（参考）

日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる飛来解析から
 6月11日にコブノメイガが飛来したと推定して有効積算温度を算出
 した。
 気温はアメダス岡崎のデータを用いて解析した。
 7月15日までは実測値、7月16日からは平年値を用いた。